

<< 朝日町総合計画・総合戦略検証委員会での委員意見及び当該意見に対する各部署対応状況一覧表 >>

区分	施策分野	主要施策	担当部署	成 果 指 標 等								前回（第5回）検証委員会（H30.11.29）における意見等		今回（第6回）検証委員会における意見等
				項 目	単位	H 2 6 （基準）	H 3 2 （中間）	H 3 7 （最終）	H29実績、H30.10.01現在			委 員 意 見	左 記 委 員 意 見 に 対 す る 回 答 各 部 署 に お け る 対 応 状 況	委 員 意 見
									成果数値	達成状況等				
1 子育て・教育	11 子育て支援	114 子育て世帯への経済的支援の推進	住民・子ども課 健康課 教育委員会 企画調整課	【総合戦略】 妊娠・出産に関する経済的支援が充実していると 感じる夫婦の割合	%	(H28) 98.1	99.0	100.0	95.7	H28比較：▲2.4 ※第3回検証委員会で成果指標を上方修正	▲	●朝日町は、子育てにおける経済的支援が充実していると感じているが、成果数値が減少している。今後、どのような施策を展開していくのか。	●当町の子育てにおける経済的支援の水準は、充実している と考える。そのような中、平成29年度からは「おうちで子育て応援事業」も実施しているが、利用者の多くが母親である。このことも踏まえ、子育ての外、就業のあり方も考えていかなければならない。 ↓↓↓ ●家庭の所得水準により、経済的支援の充実感が異なるもの と考えており、就業への環境支援が必要と考えている。 ●環境支援としての、延長保育や休日保育、病児・病後児保育、ファミリーサポートセンター事業など、既存制度のPRに努めていきたい。 ●2019年度版の子育てガイドブック（2,000部）を作成した。保育所園児・小中学校で全児童生徒に配付したところであり、未就学児を持つ保護者に郵送する予定である。また、保健センター、子育て支援センターに配備した。 ●小学1年生には、体操服購入支援を、中学校では給食費の無償化を行っている。 ●現在の支援策を内外に広くPRするとともに、効果的な支援策の住民ニーズについても検討したい。	◎子育てガイドブックを作成されたが、カラフルで見やすく好評である。
1 子育て・教育	11 子育て支援	116 非婚化・晩婚化対策の推進	企画調整課 健康課	【総合戦略】 婚活事業の参加を通じて結婚したカップル数〔累計〕	組	(H28) 0	15	30	1	※第3回検証委員会で成果指標を下方修正	△	●婚活イベントにおける団体補助は、平成29年度は1団体あたり300千円であったが、平成30年度は1団体あたり100千円に減額された。事業実施にあたっては、経費が高むことから、補助金の見直しを検討してもらいたい。	●補助金額は、事業規模を勘案しながら設定しているが、支援のあり方について、内部で検討していきたい。 ↓↓↓ ●県内における当該事業に類似した補助金額を調査したところ、当町の補助金額は高い方である。例えば、富山県の補助金額をみると、50人～100人規模で300千円である。 ●補助金額は、町財政、事業規模を勘案しながら設定していることから、現行どおりとする。	
1 子育て・教育	12 学校教育	123 心の教育の推進（生活指導、いじめ・不登校対策）	教育委員会	不登校児童・生徒数〔年間〕	人	5	0	0	8	H26比較：+3人 （+60.0%）	×	●不登校児童・生徒数が増えている。今後の展開・方針として、「引き続き、県にカウンセラーの配置を要望し、教育相談体制の構築に努める。」となっていることから、しっかり取り組んでいかなければならない。	●不登校の原因については、本人や家庭の事情など、個々の事案によって様々である。このことから、成果指標の設定自体が難しい面もある。 ●学校にはカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置しており、学校と家庭の連携、教育相談会や教育センターでの指導に取り組んでいる。 ↓↓↓ ●スクールソーシャルワーカーの配置時間数は、平成30年度と比較して増加しているほか、今年度からは教育センターが学校や本人の自宅を訪問して積極的に相談・指導を行うことに取り組んでいる。	◎心の教育の推進に関し、スクールソーシャルワーカーやカウンセラーが学校にいる時間は、まだまだ短い。これらの方々の配置時間の拡充をお願いしたい。
1 子育て・教育	12 学校教育	126 ふるさと教育の推進	教育委員会 企画調整課	【総合戦略】 地域に誇りを感じている若者の割合	%	54.9	70.0	80.0	49.4	H26比較：▲5.5 ※平成29年度アンケート調査実施	▲	●平成29年度の再生会議中間報告会において、現在の中学1年生が小学6年生当時に事業案を提言した。町側からは、当該提言に対する回答をもらった。 ●現在、中学1年生は、総合の学習（我が町朝日 再発見！）で朝日町活性化案の作成に取り組んでいるところであり、生徒が考える提言を少しでも町施策に取り上げて欲しい。	●当時いただいた提言については、各部署において真剣に実現可能性等を研究・検討した。その中の1つとして、「カレンダープロジェクト」があった。現在、商工会と連携して、商工会が作成するカレンダーに小学生が選んだ朝日町の写真を取り入れることで進めている。 ●今後も、提言の実現、達成感大切にしていきたいと考えており、学校側も、引き続きふるさと教育に協力いただきたい。 ↓↓↓ ●「カレンダープロジェクト」は、商工会と連携して、商工会カレンダーに小学生が選んだ朝日町の写真を取り入れ、広報あさひ4月号のあわせて全戸配布した。 ●3月4日、地元食材を使用したグリーン給食を実施した。 ●地元の低山登山・たら汁給食・14歳の挑戦など、子ども達がふるさとへの愛着や誇りが持てるよう各種事業に取り組んでいる。 ●今年度より新たに町内の企業訪問を小中学校で実施する事としている。	◎子どもたちは、非常に柔軟で創造的で発想力がある。朝日町の子どもたちは、何処の市町村よりも朝日町を愛する気持ちが育まれていると感じている。 ◎ふるさと教育の推進に関し、小学生が町に提言し、町側でその提言をいくつか実現された。これは、子どもたちにとって良い経験となった。今後もそのような取組みはなされていくのか。仮に、そのような取組みをされるのであれば、年度開始前に学校に教えて欲しい。
1 子育て・教育	14 スポーツ	141 健康スポーツの推進	教育委員会	総合型地域スポーツクラブ「ひすいスポーツクラブ」会員数〔年間〕	人	254	400	500	327	H26比較：+73人 （+28.7%）	△			◎健康スポーツとして、ノルディックウォークやカローリングがある。これらは世代・年代・季節を問わずできるスポーツであることから、朝日町で普及させていけばよいのではないか。
3 産業振興	31 農林水産業	313 6次産業化、農商工等連携の推進	農林水産課 商工観光課 地域振興課	《交付金》 販路拡大による売上額	千円	(H28) 722	25,000	—	1,420	H28比較：+698千円 （+96.7%）	△	●特産品の販路拡大策として、ふるさと納税の活用が挙げられている。しかし、ふるさと納税における返礼品の目安が納税額の3割程度と示されてから、納税額自体が減少している。現時点でのふるさと納税額及び今後の展開について、どのように考えているのか。	●ふるさと納税額が減少した時期もあった。現在は、ふるさと納税サイトも活用しながら展開している。現段階では、昨年度の同時期と比較して、若干増加している。 ↓↓↓ ●平成30年度は、ふるさと納税をインターネットで申込みできる「ふるさと納税ポータルサイト さとふる」を活用したことや商品の見直しにより、実績が対前年度比で1.7倍に増加した。	

<< 朝日町総合計画・総合戦略検証委員会での委員意見及び当該意見に対する各部署対応状況一覧表 >>

区分	施策分野	主要施策	担当部署	成 果 指 標 等								前回（第5回）検証委員会（H30.11.29）における意見等		今回（第6回）検証委員会における意見等	
				項 目	単位	H 2 6 （基準）	H 3 2 （中間）	H 3 7 （最終）	H29実績、H30.10.01現在		委 員 意 見	左 記 委 員 意 見 に対する 回 答 各 部 署 に お ける 対 応 状 況	委 員 意 見		
									成果数値	達成状況等					
3 産業振興	33 商工業	331 既存企業・事業所の 経営体質の強化	商工観光課	【総合戦略】 事業所数（公務を除く）	事業所	774	790	800	640	H26比較：▲134事業所 （▲17.3%）	▲	●既存企業への支援策は、どのようなことを考えているのか。 ●企業誘致も大切であるが、既存企業にも引き続き目を向けて欲しい。	●当町では、商工会とタイアップして、「がんばる事業者応援事業」を実施している。当該事業を活用して、「まちゼミ」や販路確保、経営指導等を行っていただいている。		
3 産業振興	33 商工業	333 起業・就業の促進 （人材の育成、立 上げ支援）	商工観光課	【総合戦略】 起業・開店数〔累計〕	件	1 （まちなか） ＋ 0 （郊外）	5 （まちなか） ＋ 2 （郊外）	12	5 （まちなか） ＋ 2 （郊外）	H26比較： まちなか：＋4件 （＋400.0%） 郊外：＋2件 （皆増）	○	●中間目標を達成していることから、成果指標を上方修正すべきではないか。 ●上方修正に際し、商工会と協議していきたい。	●検討していきたい。 ↓↓↓ ●上方修正に際し、商工会と協議していきたい。		
4 観光・交流	41 観光	411 観光素材の魅力向 上	商工観光課 農林水産課	【総合戦略】 観光客入込数〔年間〕	万人	25.0	45.0	50.0	27.1	H26比較：＋2.1万人 （＋8.4%）	△	●朝日町のイベントとして、トレイルランやシクロクロス大会が開催されている。観光入込客数には、このようなイベントに参加される県外客が含まれているのか。 ●このような大きく発展していくと予想されるイベントに対し、町としてどのように関わっていくのか。 ●「山の日」の制定以来、朝日町の低山への来訪者が増えている。この流れは、町としても大切にしていけるべきである。しかしながら、駐車場不足や道路保全などといった課題があることから、低山へ目を向けた事業展開をお願いしたい。 ●インバウンド事業について、海外からの観光客は増加しているのか。 ●朝日町には観光はあるが、それが産業に結び付く流れがなかなか無い。商業者は、様々なイベントにボランティアという意識でしか携わっておらず、お金を落としてもらう（＝稼ぐ）といった部分が上手くいっていないと感じており、商業者の意識改革が必要である。 ●これまでの産業は、「業者だけの産業」であった。朝日町では、民泊をはじめ、ヒスイ探しや魚のさばき方など、暮らしが観光を受け入れ始めた。これは地方創生の1つのモデルになるものとする。何か産業があるとそれに促される。朝日町には大きな産業が無いからこそ、自然や暮らし、風土が観光地になってきている。暮らし・農村・漁村・山村にそれぞれの良さがあり、その良さを感じて朝日町を訪れたいと思う人も増えてきている。これが素晴らしいことである。	●イベント参加人数が分かり次第、追加して計上していく。 ●支援策として、町内で宿泊された場合、1人あたり2千円を助成している。 ●朝日町観光協会及び大蓮華山保勝会で低山マップを作成していただいたところであり、好評である。要望のあった件については、検討していきたい。 ↓↓↓ ●平成30年度から、朝日町観光協会が大鷲山登山のイベントを開催している。 ●当町では、平成29年度からインバウンド事業に力を入れている。11月には、にいかわ観光圏として、台湾で開催された国際観光博に参加し、2市2町の首長がトップセールスを行った。平成30年4月には、台湾から約300人の観光客が舟川を訪れた。平成31年2月には、台湾から約40人の高校生を受け入れる予定である。 ↓↓↓ ●平成31年4月には、台湾、中国、韓国を中心に約2,000人に増加した。 ●観光には、宿泊やお土産で業者にお金が落ちる仕組みが必要である。様々な仕掛けがビジネスとして成り立つかを判断しながら、商業者自身が連携していかなければならないと考える。 ↓↓↓ ●平成31年4月の舟川春の四重奏では、多くの来訪者があり、出店者には明らかな経済効果が表れている。また、町内の飲食店にも影響が出ており、事業者に、この経験を生かして観光客を誘導する方法を考えていただきたい。	◎朝日町には豊かな観光資源があり、当該資源を活かす取組みが多くなされている。このことから、観光客が増加してきているものの、まだまだ朝日町は「通過地点」であると感じている。今後の観光に対する戦略が重要となってくる。 ◎町の付加価値を上げるものが観光であるということは、皆さんの共通認識であると考える。その具体策を落とし込むことは難しいが、具体的にどのようなことを実施していくのか等を決定していくには良い時期であると考える。 ◎今春の舟川春の四重奏は、4,3万人と伸びている。ここに来るまでに様々な企画や努力があったと思う。朝日町への観光客を如何に楽しませ、観光を産業化させていくかの具体策を考えていくことが必要である。 ◎先日、魚津市で勉強会があり、台湾在住の先生と話す機会があった。その中で、「雪の大谷は、日本の観光資源の中で富士山と並ぶものであり、必ず見るべきである。」という話があった。舟川春の四重奏も雪の大谷への観光時期と近接していることから、このような観光客の誘客も視野に入れていかなければならないと考える。台湾人は、我々の思わぬ場所にピンポイントで何度も訪れる。舟川春の四重奏以外の時期に如何にそのような観光客を呼び込むのかという方策も踏まえる必要がある。 ◎朝日町には観光資源及びストーリーがある。それらを伸ばしていく必要がある。 ◎「稼げる、儲かる、所得を上げる」ということが大切になってくる。その場合、当該データはどのように計るのか。つまり、観光消費額をどう捉えていくのか。その消費が域内のものか、出ていくものなのか等を見極め、お客様に喜んでいただける商品の提供が必要であるとする。 ◎町の2大景勝地を訪れる観光客を如何に街中へ呼び込むか、動線を作ることができるのかも考える必要がある。 ◎インバウンドが伸びてきているが、お金を落とすストーリーを構築しなければならない。 ◎朝日町での体験や飲食で稼ぐことも1つの方法である。浜山玉造り遺跡と勾玉づくり体験を絡めたストーリーを作ればどうか。 ◎お土産品を開発して欲しい。	
4 観光・交流	41 観光	413 情報発信・プロ モーションの強化	商工観光課	出向宣伝回数〔年間〕	回	7	10	15	18	H26比較：＋11回 （＋157.1%） （最終目標達成）	◎	●外国人観光客が、いつ頃来町するのか等の情報が早目に分かれば、ビジネスチャンスとして出店をチャレンジする商業者も出てくると考える。そのような情報発信を行って欲しい。 ●現在は「春の四重奏」を中心に海外の旅行会社に旅行商品を作成していただいております。着実に実績が上がってきている。春の四重奏のイベント時期については、商工会から出店者を募っており、今後も情報発信をしていく。	●多くの方々が来町し、お金を落としてもらえる工夫を重ねていくことが大切である。 ↓↓↓ ●現在は「春の四重奏」を中心に海外の旅行会社に旅行商品を作成していただいております。着実に実績が上がってきている。春の四重奏のイベント時期については、商工会から出店者を募っており、今後も情報発信をしていく。		

<< 朝日町総合計画・総合戦略検証委員会での委員意見及び当該意見に対する各部署対応状況一覧表 >>

基 本 目 標	成 果 指 標 等							前回（第5回）検証委員会（H30.11.29）における意見等		今回（第6回）検証委員会における意見等
	総 合 戦 略 数 値 目 標	単位	H 2 6 (基準)	H 3 2 (目標)	－ (－)	H29実績、H30.10.01現在		委 員 意 見	左 記 委 員 意 見 に 対 す る 回 答 各 部 署 に お け る 対 応 状 況	委 員 意 見
						成果数値	達成状況等			
2 町への人の流れをつくる、町に人を呼び込む	若者の転入者数〔年間〕（20～39歳を対象）	人	99	120		103	H26比較：＋4人 （＋4.0％） △	●数値が改善されてきている実態は、良い傾向であり、目標の達成に向けて努力して欲しい。	●これまでの町施策における取組みが、徐々に浸透してきた結果であると分析している。今後も効果的の見直しを行いながら、住みよい町となるように努めていきたい。	◎企業誘致、インバウンド事業を含めた観光客の増加、レオス・キャピタルワークス(株)の藤野社長が古民家を購入し、勉強会を開催することなど、町のねらいや動きは、非常に良いと感じており、何か面白いことが起こりそうな雰囲気になっている。付加価値を上げるにあたり、即効性を求めることは難しいが、将来に繋がることを少しずつ進めていけば好転する。
	転出超過者数〔年間〕	人	103	70		52	H26比較：▲51人 （▲49.5％） ○			
3 若者の結婚・出産・子育てを応援する	家族の役割として「子どもを産み育てること」が重要だと思う若者の割合	人	36.0	40.0		7.6	H26比較：▲28.4 ※平成29年度アンケート調査 ×	●平成29年度アンケート結果において、割合が低い。	●基準とした成果指標は内閣府の数値を採用した。平成29年度に当町が独自に行ったアンケートとの捉えられ方に差異があったものと考える。 ↓↓↓ ●次回アンケート時に、設問の捉えられ方に齟齬・差異が生じないようにしたい。	